

## ■□■受験対策ミニ講座 12号 2018■□■

全国的に寒暖差の激しい師走のようです。体調を崩すことのないよう滋養のあるものを取り、体力を蓄えながら本格的な寒さに立ち向かっていきましょう。

今回の Plus Column では時事問題とその取り組み方について考えていきます。どうぞ最後までお読みください。

### 【問題 12 30回 126】

「平成 28 年版高齢社会白書」(内閣府)における国際比較調査(日本、アメリカ、ドイツ、スウェーデン)に関して正しいものを 1 つ選べ。

- 1 現在の貯蓄や資産が老後の蓄えとして「やや足りない」と「まったく足りない」と回答した高齢者の割合の合計は、日本が最も多い。
- 2 近所の人と「病気の時に助け合う」と回答した高齢者の割合は、日本が最も多い。
- 3 「今後、収入を伴う仕事をしたい(続けたい)」と回答した高齢者の割合は日本が最も少ない。
- 4 ふだん、近所の人と「お茶や食事を一緒にする」と回答した高齢者の割合は、日本が最も多い。
- 5 老後生活に「満足している」と「まあ満足している」と回答した高齢者の割合の合計は、日本が最も多い。

正解と解説は最後に記載しています。

## ■Plus Column ・ ・ ・ ・ ・

### 【社会と世界とここ 1.2 年】

「高齢社会白書?見たことない!」と焦る必要はありません。毎年、数題はある時事問題ですが、様々な白書や調査結果は問題文の根拠として示されている、と考えてください。

膨大な量の政府刊行物や調査結果の全てに目を通すのはほぼ不可能であり、仮にそれらを"丸暗記"したとしても、あまり意味があるとは思えません。

私たちに必要なことは、いつもアンテナを張って社会の動きに敏感であること、世界の動向にも関心をもつことで、そうしたことが"試験対策"でもあります。

例えば今回の過去問「高齢社会に関する国際比較調査の内容」の選択肢は、「日本が最も多い」と「最も少ない」の二種類です。最近のニュースや新聞記事などで話題にされていることやご自身の体験をもとにして考え、判断することができると思います。

時事問題の頻出傾向は必ずしも"直近のこと"ではありません。統計的な数字も発表されたばかりの「速報値」ではなく、修正が加えられた後の「確定値」が使われるため、ピッカピカの最新情報が必須というわけでもないのです。

年末年始に「平成を振り返る」といったような記事があったら、少し遡って"近い過去"を振り返ってみることも良いかもしれませんね。その時には、ソーシャルワーカーの自覚のもとに、弱い立場の人の側から物事を見つめることを忘れないでください。

今回受験する方は、ここ 1.2 年の動向や法改正をチェックしておきましょう。春頃、皆さんにお送りした中央法規出版「別冊 社会福祉制度等の主な動きとポイント」という小冊子にも、各分野の最近の動向がまとめられています。参考にしてください。

## ■Back Number ・ ・ ・ ・ ・

過去のバックナンバーはこちら→[http://www.aigo.or.jp/yoseijo/?page\\_id=2686](http://www.aigo.or.jp/yoseijo/?page_id=2686)

### 【問題 12 30回 126 正解と解説】

- 1 ○「老後の蓄えが足りない」は、日本 57%、アメリカ、スウェーデン、ドイツの順

- 2 × 「病気の時に助け合う」は、ドイツ 31%、アメリカ、スウェーデン、日本 5%の順
- 3 × 「仕事をしたい」は、日本 44%、アメリカ、スウェーデン、ドイツの順
- 4 × 「近所の人とお茶や食事をする」は、ドイツ 50%、スウェーデン、アメリカ、日本 24%の順
- 5 × 「老後生活に満足」は、スウェーデン 97%、アメリカ、ドイツ、日本 88%の順

※掲載内容の転載・再配布はご遠慮ください。

※メール内容に対する個別の対応は行っておりません。

※問い合わせ等については社会福祉士養成所ホームページより行えます。

〒105-0013 東京都港区浜松町 2-7-19KDX 浜松町ビル 6F

Copyright2016 YoseijoNewsplus